特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議　建造物部会（第 24 回）

議事録

日　時　　平成 30 年 2 月 8 日（木）10:00～11:00
場　所　　本丸御殿 孔雀之間
出席者　　構成員

小浜　芳朗	名古屋市立大学名誉教授	座長
溝口　正人	名古屋市立大学大学院教授	副座長
麓　　和善	名古屋工業大学大学院教授	
小松　義典	名古屋工業大学大学院准教授	

オブザーバー

近藤　佳世	愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室主査

事務局

観光文化交流局名古屋城総合事務所
教育委員会事務局生涯学習部文化財保護室
住宅都市局営繕部営繕課
公益財団法人文化財建造物保存技術協会

議　題　　1　本丸御殿復元工事について
・工事状況について
・工事工程表
・建築装飾ワーキングの検討内容報告
・本丸御殿完成公開時の観覧ルートについて

配布資料　特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議 建造物部会（第 24 回）資料

事務局	1　開会 2　あいさつ 3　部会構成員、事務局　紹介 4　今回の議事内容について まず資料の確認をいたします。会議次第 A4 が 1 枚、座席表 A4 が 1 枚、会議資料として A4 のホッチキス留めが 1 部です。 本日の会議の内容は、本丸御殿復元工事についてということで、ご意見をいただければと思います。ここからの議事の進行は、座長に一任したいと思います。小浜座長、よろしくお願いいたします。
	5　議事 本丸御殿復元工事について
小浜座長	資料に基づいて、事務局より説明をいただいてから、構成員の皆様にご意見を伺いたいと思いますので、よろしくお願いします。 それでは、本丸御殿復元工事についてと、本丸御殿完成公開時の観覧ルートについて、事務局から説明をお願いします。
営繕課	まず本丸御殿復元工事について、ご説明いたします。1 ページ目、1－1 として工事状況です。本丸エリアの内部、外部の状況として写真を掲載しました。ただ今、上洛殿では表具工事を、上御膳所では畳工事を、黒木書院と湯殿書院では左官工事を行っています。外部では、外構工事の路盤工を行っています。 続いて 2 ページ目、1－2 の工事工程表をご説明いたします。こちらのほうは、前回の建造物部会8月から工期末の3月まで掲載しています。上洛殿の工事は、内部造作、天井を 8 月以降 9 月中旬まで行いました。一部残していました、上段之間については、今月中旬より格縁天井を納めていく予定です。屋根工事は、9 月に棟瓦の施工を終え、完了しています。左官工事は 1 月に漆喰工事を完了し、終了しています。 上御膳所です。木工事については、8 月一杯で内部造作を終え、現在、畳が敷かれている状況で、ほぼ工事を完了しています。 黒木書院です。木工事については、内部造作を 8 月以降に部分的に、東・南入側を 9 月まで、一之間・二之間を 11 月初旬までに終えています。あとは板壁の施工を 12 月に行い、内部造作を終了しています。屋根工事は、8 月に柿葺きを完成し、9 月に棟瓦葺きを完成しています。左官工事については、現在施工中ですが、9 月に中塗り、11 月に荒壁から中塗りを終えて現在、漆喰塗の施工を行っています。 湯殿書院については、木工事は 8 月に小屋組みが無事終わり、内部に入って根太、荒床板、および 10 月頃に内部造作を始め、1 月にほぼ終了しています。屋根工事は、9 月に柿葺きを開始し、10 月に終えています。のちに棟瓦葺きを終了しています。左官工事については、9 月に斑直しを終了し、10 月、11 月に中塗り、現在は漆喰塗を行っています。

	風呂屋形は、11 月から建込を開始し、2 か月で屋根伏まで完了しています。2 月中旬より床貼、棟の納めを行っていく予定です。 　工種別に移りまして、仮設工事ですが、9 月より素屋根解体の準備工を始め、屋根の棟瓦が据わったところで全体的な解体を開始し、12 月一杯、昨年末に素屋根の解体を終了しています。建具工事は、工場の方で制作しており、10 月頃より調整および取り付けを行っています。段階的に設置を行っています。彫刻欄間は、現在彩色を行っています。2 月中旬より段階的に取り付けを行っていく予定です。表具工事においては、9 月より現場で下地・上貼を行っています。現在は設置できるところより、現場で据付けを行っています。金具工事についても、工房で制作したものを順次取り付けているところです。雑工事です。畳工事については、10 月頃より内部の採寸をし、製作を開始しています。これは 1 月中旬から、現在は上御膳所で畳の敷き込みを行っています。外構工事は、現在地中の配管と舗装の準備の路盤工等を行っています。設備工事については、段階的に消防設備、避雷針、コンセント埋込の作業を行っています。
文建協	建築装飾ワーキング等の検討内容報告について説明いたします。ワーキングとして今回ご報告いたしますのは、昨年の 10 月 10 日、12 月 21 日、今年の 1 月 16 日の 3 回分のワーキングの検討事項です。 　まず彫刻欄間、3 ページからご説明いたします。これは山鵲と草木を題材とした彫刻欄間です。先回に一部ご報告いたしましたが、手を少し修正して、彩色をこれからしていく直前の状態です。パーツが非常に細かい付木等が多くあり、これを外しながら彩色をして、また取り付けていきます。また付ける時に注意をする。その時に、最終的には古写真をしっかり見ながらやるという必要があります。最終的な雲の修正にあたる段階、彫りの部分とかをご説明いたします。 　雲の巻き込みが少しきついので、浅く修正すること。木の部分は、幹の分かれ方をはっきりさせる。これも同じく、鑿跡が少しきつくなっているので、もう少しゆるくぼかす。鳥の部分は、角が立ち過ぎているので、もう少し緩やかにする。枝の伸び方が少し古写真と違うので修正する。古写真というのは、枝が左手前に出ています。これを見ると、少しこの写真は飛び出て見えます。この部分、6 番でありますが、表現を確認して修正すること。そして尾の曲がり具合を再度確認すること。共通事項としては、古写真は葉の表側と裏側の表現が異なっているので、古写真をよく見ること、という指摘をいただいています。その部分に関して手を加えて、現在彩色、色を塗る作業を、工房に運んでいる状況です。同じくこの題材の裏面に関して、鳥の嘴の部分が丸すぎるので少しとがらせる、花は花弁のバランスが崩れていること。雲は、各彫刻欄間の題材と、古写真を見ても彫りのタッチや表現、あるいは彩色が少し異なっています。不思議なところですけども、忠実に、もっと古写真に倣っていくということで、雲に関しては、はっきりと古写真のように段差をつけること。巻き方も同様です。葉の表面については、張りすぎているので、もう少し抑える。付け根の表現、分かれ目まできちんと表現して彫ること、というご指摘をいただいています。 　4 ページです。これに関しては以前、鳥の方をご説明いたしました。丹頂と真鶴、亀、植物は牡丹の題材です。これに関しては、彩色を行ったところです。彩色をしたうえで指摘された内容に関しては、部分的に

	描き起こして、もう一度箔を押し直して彩色し直す。単に加筆ですめば、そこまで掻き落とす必要もありませんけども、実際そのような修正を行っています。個々の彩色に関して、大きく3つ指摘されたところをご紹介いたします。真鶴、1番のところです。ちょうどこの裏も、大和苔を描き忘れているということ。表現と違って、苔が集中しすぎているところがあるということ。亀は、亀の甲羅によく見ると亀甲紋が施されています。それがしっかり描かれていないので、それを付けたすというご指摘をいただいています。 続いて、これも彩色を付けた状態です。それに関して指摘されていることが、4ページの下の方です。錦鶏という鳥と松（唐松）です。鳥の部分の指摘をいただいています。頭のトサカの部分の毛描きが少し足りないのではないか。木の幹の墨線が細くなりすぎているので、修正すること。雲の間に見える、裏から見える、裏側を幹が伸びている部分に関して色がつけていない。岱赭といいますが、色で補うということ。共通的な内容として、大和苔、苔の色具合はこれでいいのかとか。最後に全体的に確認をして、古写真を見ながら墨を入れるところをしっかりと修正するという必要性をご指摘いただいています。 錺金具です。資料の5ページです。第3期の錺金具を中に取り付けています。部分的には量産をしながら、あるいは非常にキメの細かい、数の少ないものに関しては、ワーキングにかけながらチェックを受けています。まずは上洛殿帳台構の定規縁、縦に付く金具です。今回下地が細かいので、拡大のものをつけています。左と右で、実物と彫りの先をわかるようにしています。この植物、蕾先端の表現、鶏の足の部分のあたりの表現をよく見て、修正することということです。鶏の胴体部分が少し平たいので、立体感を出す必要があるという指摘をいただいています。同じく下に帳台構、形の違う六葉の金具です。これは七宝が入るものです。これに関して、造形的な彫りの、あるいは彫りのタッチの指摘事項がありました。葵紋の蕨手の玉が、少し小さくなっているので修正すること。輪郭のくくりの部分、蕨手が交錯するところが少し鈍くずんぐりしているので、シャープに、古写真の拡大したものを見ながら修正するというご指摘をいただいています。 その下の部分、黒木に関して、釘隠の金具です。これも拓本をもとに実際の彫りを、確認してほしいということです。花の部分は小さいというご指摘です。華奢に見えるので、少し大きくするということです。唐草は、茎と葉の部分を少し太さの加減が違うので修正するという指摘をいただいています。 最後に、湯殿書院の釘隠です。古写真が遠巻きにしか写っていないので、拓本が最も参考資料となっています。これを比較していくと、外の覆輪の幅が実物よりも太くなりすぎているということです。六葉の先端が6つありますが、少しにぶいので、細くとがらすということです。縁の立ち上がりは、少しテーパーがついているのではないかというご指摘と、猪の目、ハート形ですが、この試作品ではまだくりぬいていませんが、小さいので大きくするということです。 このように、金具、彫刻のご指摘をいただきながら、目途を、工期を見据えつつ修正をして、必要なものに関しては検討をして、という状況です。
事務局	最後に、本丸御殿完成時の観覧ルートのご説明をいたします。A3 横

	長の図面、最後の資料ページをご覧ください。本丸御殿の全体図が載っています。その中で、観覧ルートということで赤の矢印で、本丸御殿の中の観覧ルートを示しています。現在、1 期、2 期の部分の公開をしている中で、ルートとしては対面所の南入側を、西に向かって進みます。そこから北に西入側、北の部分に進み、そこから東に動いて、現在の 1 期、2 期の公開ルートになっています。第 3 期部分の公開については、対面所、南入側のところを西に向かって進みます。今杉戸が設置されていますが、その杉戸を通って鷺之廊下まで進みます。鷺之廊下を西に向かって進んで南に折れますと、上洛殿のエリアに入っていきます。上洛殿のエリアの東入側、南入側、西入側を順にルートとして通り、最終西入側の突き当りの所まで進みます。そこから西入側を反転し、そのまま西入側、南入側、東入側とルートを戻ります。そこから鷺之廊下に戻り、梅之間に入ります。梅之間の中に入りましたら、その西側にある葡萄廊下を通ります。そして北進し、上御膳所に入ります。上御膳所を見学していただいたあと、東側の蘇鉄廊下を通り、北に進み、東、南入側に行きます。そのまま東へ進み、下御膳所のところに至り、最終的には中之口の部屋に至るということで、第 3 期の通常の公開ルートを、このように計画しています。 　続いて、一番本丸御殿で西側にある湯殿書院、黒木書院の観覧については今計画を考えているのが、湯殿書院、黒木書院の入側の幅について、ほかの 1 期、2 期、上洛殿と比べて狭いルートになっています。ですからここについては、時間と人数を制限して、案内人をつけます。案内人の誘導で湯殿書院、黒木書院を観覧していただき、最後、黒木書院に到りましたら、黒木書院からまた戻っていただき、最後、湯殿書院の南側に入口がありますので、その入口で最後戻るという、通常の観覧ルートとは別のルートを設けて観覧していただくルートを考えています。
小浜座長	ご意見、ご質問等がありましたら、お願いします。
麓構成員	欄間彫刻ですが、記録としてでき上がったときに写真を撮ります。取り付ける前に。その写真のバックを黒くしていただいています。今回の資料でも、例えば 4 ページの 2 はバックが黒いので、古写真とよく比較ができます。上の鶴の欄間彫刻はバックが黒くてよくわかりますが、金鶏の彫刻は、新しいもののバックが光っているので、下の地の部分が見えない。同じように、後ろを黒くした彫刻写真を記録として残しておくといいと思います。 　5 ページは、まだ試作品の写真ですが、試作品ですからくぼみの部分の拡大というのも、下の魚々子地の部分はくりぬいていないですよね。透かしていないですよね。その透かしていないというだけではなくて、こういうものを作るとき、どうしても職人さんは蕾の大きさのほうに気をとられてしまい、地のところの大きさが小さくなりがちです。蕾が大きくなって、地が小さくなってしまいます。ちょうど拡大しているところの、真ん中の透かしの部分を見ると、古いものと新しいものとで広さが違うというか。わかりますか、言っていること。
文建協	はい。
麓構成員	くりぬく地の部分も注意して見ていかないと、どうしても彫り出すほ

	うを大きくしがちですから。それを注意されたらいいと思います。
小浜座長	1ページ目は、素屋根が撤去されています。素屋根がなくなったので、いい景色になったと思っています。2ページ目の工程表ですが、ほぼ完成間近ということで、工事についてはほぼ完成されているということです。あと、今の欄間彫刻と錺金具が残っているかもしれませんけど、欄間彫刻や錺金具は、3月の完成時期というのは、どの程度の予定で終わられるのですか。
営繕課	取り付けについては、ほぼ3月の末には完了している状況です。
小浜座長	そうですか。取り付けは、金具もそうですか。
営繕課	その予定です。
溝口副座長	観覧ルートについてですが、湯殿と黒木書院のことについてはご説明がありました。今は入側から基本的には観る、外から観るかたちになっています。特に上洛殿はそうですけど、お部屋の中に入って観覧するのは、だいたいどの程度の頻度と言いますか、特に上洛殿は、彫刻欄間など、錺金具もそうですけど、非常に贅を尽くした部分です。外巻きで入側から観るというのではなくて、もう少し間近なところで、これだけの工事竣工したものを観たいという観覧者の方も非常に多いと思います。そのあたりの、中に入っての観覧というのは今後どのように考えられていますか。せっかく職人さんたちもがんばってこれだけの工事をしていただいたので、できるだけ間近なところで、そういうような現場を観ていただきたいというのが、関わらせていただいた関係で、そのあたりもちょっと。今までどうしてきたかということと、今後どうかということを、今検討されているのであれば聞かせてもらいたいです。
事務局	観覧の考え方ですが、今まで1期、2期の部分について、お部屋の中を観覧していただいたこともあります。ただ常時というわけではなく、特別な時に機会をもうけてお部屋の中の観覧を行ってきました。上洛殿については、天井板もあり、彫刻欄間もあります。見どころが豊富なところですので、そちらのお部屋についても、また常時というわけではありませんが、機会をとらえて多くの方に観覧していただけるような計画を、名古屋城としても考えていきたいと思っています。
小浜座長	今のこのルートは廊下ばかりです。廊下ばかりで遠目に観るような感じですけども。時々は中に入っていただいて、詳しく観ていただくというイベント的なこともやられるということですね。
事務局	今後、機会をとらえて計画していきたいと思っています。
小浜座長	湯殿書院と黒木書院は、廊下が狭いから案内人にお願いするとありますが、案内人というのは、ボランティアの人にお願いするのですか。どういう方にお願いするのですか。
事務局	今計画しているのは、現在1期・2期、本丸御殿の中で運営している

	スタッフがいます。そのスタッフの方に、案内人の委託をかけようと思っています。
溝口副座長	障壁画がまた別途ですけど。多分、2 期だと梅之間のあたりについていますよね。障壁画は、今後どういうかたちで進んでいくのかということを、お聞きしたいです。
事務局	障壁画の復元模写については、今後も制作を引き続き行っていって、制作ができた段階のところで本丸御殿の中に表具をして進めていきたいと思っています。
溝口副座長	まだ制作途中という部分は、公開時点はどういう状態でしょうか。
事務局	公開にかかるエリアで、障壁画の部分、復元模写が制作の計画が後期になっている部分の襖絵や天井、壁については、鳥の子紙の仕上げで観覧していただくことになります。 湯殿書院の障壁画については、本年度制作をしています、元々こちらには重要文化財の障壁画があります。こちらのほうをデジタル複製し、そのデジタル複製をした絵を湯殿書院に設置をし、観覧していただくことを考えています。
溝口副座長	それは復元模写が完成したら入れ替わるということですか。
事務局	その計画です。
溝口副座長	もう 1 点、今回工事でいろいろな試作品を作ったり、今日も資料に出ています。いろいろ細かい、どういう細かいプロセスを経て錺金具や彫刻欄間を工事してきたかという、工事のプロセスや、サンプルが残っていると思いますけども。そういったものも、ある種貴重な記録だと思います。先ほど麓先生が言われた写真の話もそうですが。どういうふうに本物の復元をしてきたかという、工事の全体、プロセスみたいなものを、現物、残っているものも含めて来ていただいた方にお見せするというようなことを、ぜひ計画していただけているとありがたいです。工事のプレゼンです。その点については、どのような計画をされているのですか。 特に考えていなかったら、ぜひそういうことを考えていただきたいです。これは途中のワーキングでもお話しましたが、麓先生のご指摘にもありましたように、サンプルからどこを注意してどう変えたとか、完成したものだけではわからないプロセスを、ぜひ観ていただくことで、今後天守も工事に入っていくでしょうけども。工事そのものの、どれだけ人手がかかって、どういうふうに本物を目指したかというプロセスも、ぜひ来られた方にわかるようにしていただけると。もちろん映像も大事だと思いますけども。現物で、どういうふうに比較してどこまでこだわったかというのは、物からわかることは多いと思います。可能な限り、そういったことを工夫いただけるとありがたいなと思います。
事務局	今回本丸御殿が完成して、非常に大きな復元プロジェクトです。材料にもこだわり、史実に忠実に。しかも我々、木曽との交流も持ちながら

	造ってきたということもあります。事業そのものをしっかりと、建物ができあがっただけのものではなくて、事業のコンセプトから、行ってきた事業そのものをいろいろ紹介していかなければいけないと思っています。そういうことを含めて、今先生に指摘していただいた工事の過程でのものをいかに見せていくか、ということも検討していきたいと思います。
溝口副座長	ぜひともお願いします。
小浜座長	同感です。特に、観覧の廊下が長いので、廊下のところを有効に利用して、パネル展示か何かで、展示をしていただくといいかと思います。 廊下が長くて、ずっと歩いていくと庭が見ますが、庭はどんな様子ですか。
事務局	お庭の件は、最終的に本丸御殿の南側のエリアについては、庭というものでの整備は、最終的な段階では考えていません。今後、南側のお庭について、史料の調査などをし、聞いていますのは、南側のお庭について、あまり遺っている史料が少ないという話も一方伺ってはいます。今後それについても調査を進めて、いずれかのときに復元と言いますか、南側のお庭の姿を現わせるようなことができればと思っています。
麓構成員	内部の観覧ルートはこれでいいかと思います。外観はどういうふうになるのですか。できるだけ、いろいろなところから観られるといいなと思いますけど。その辺はどのようにお考えですか。
事務局	本丸御殿の南側、今車寄せがあります。こちらの部分については、外構工事を行い、エリアとしては砂敷きの状況になります。こちらは、湯殿書院のほうへも行っていただくことになりますので、このままルートを通っていただくことになります。そうしますと、本丸御殿、こちらのエリアから上洛殿の南側を通って湯殿書院、こちらのエリアが、先ほど資料でも説明をしました素屋根も取れて、こちらのバックには上洛殿を介して小天守がここの位置にきます。小天守から大天守を臨む、非常に見どころのあるエリアになると思います。こちらの本丸御殿の南側のエリアについては、積極的にと言いますか、外部の観覧をしていただいて、外から見た名古屋城を、本丸御殿を介して天守を見る風景を、観覧していただいたお客様にも楽しんでいただけるようなことも考えています。 内苑のこちら側についても、本丸御殿の北側から南を臨むことができます。今仮囲いがついていますが、こちらについても仮囲いがなくなり見渡しが非常によくなります。内苑から本丸御殿の北側を臨むルートになります。目線が通ると思いますので、そちらについても見ていただくことが可能です。 南西に西南隅櫓がありますので、今後西南隅櫓を積極的に公開していきたいと思っています。西南隅櫓も公開しますと、今の南側、湯殿書院を観て西南隅櫓、この辺のところは非常に多くの人が通って観覧していただける場所になるのではなかと思っています。
小浜座長	南側から天守が見えたりして、撮影ポイントとしては非常にいいとこ

	ろになると思います。そこら辺もきちんと考えて、整備していただきたいと思います。
溝口副座長	外構ですが、今の北のあたりは、そのまま砂敷きでということですけども。名古屋城は特別史跡になっているので、史跡の面からいうと、北側にもかつて建物は建っていたわけです。その辺りは全体の、本丸だけではなくて二之丸も含めてでしょうけど、建物の建っていた位置を図面上で示すとか、遺構表示を、正確にどこかというのがわかるかどうかというところを、きちんと調整していかないといけないですが。来られた方は、こうスカッとまわりも空いていて建っていたような状況で、ご理解されるような場合が出てくると思います。中長期的には、史跡としての遺構表示も含めて、いろいろ全体整備の中で考えていただけると、よりかつてどうだったかということがわかると思います。その点は、何か検討されていますか。
事務局	今、保存活用計画を作っています。その中で、先生が言われたように、かつてはこうだったという遺構も含めてわかるような説明板であったり、遺構の表示であったりというのをやっていこうと。それによって特別史跡ということを、皆さまにわかってもらう、しっかり価値を把握していただけるということを、保存活用計画に謳っています。それに基づいて、先生が言われたような、内容を補足するような説明板、表示等を今後考えていきたいと思っています。
小松構成員	素屋根が取れて、光環境も自然に近づいてきていますけども。展示する時に、電灯照明というのですか、外からの光だけではなくて、室内にどういう光があるのかというところで、かなり見え方が違ってくると思います。現状では、どういう計画をされているのかが、わからないのですが。説明していただけますか。
事務局	現状では、行灯型の照明を床面に配置しています。それで当時の灯りの状態に近いだろうという明るさで展示しています。ただ当時の灯りですと、本当に火を使った行灯ですので、実際はもう少し暗かったのではないかと思いますが、あまり暗すぎてもお客様に観ていただけないので、雰囲気を損なわない程度に、絵や錺金具なども楽しんでいただける灯りを目指して行っています。 第3期エリアについても同じ照明装置を使い、適切に配置をしていきたいと考えています。
小松構成員	この部屋はかなり色温度が高いと思います。行灯とかの油とか、ろうそくが光源になると思います。そのときはかなり赤っぽい、例えば2,3,000ケルビンくらいの色温度の光源が使われていたと思います。今回採用されている行灯というのは、仕様はわかるのですか。
事務局	今手元に、色温度の資料などを持ち合わせていませんので、申し訳ありません。
小松構成員	アドバイスとしては、低めの色温度をだすと当時のものに近づくのか

	なというところと。LED を光源として採用されることが多いと思いますけども、今普及している LED だと青っぽい光が多くて、木材とかの色が青みがかって見えるということが、問題点としてはあります。最近演色性の高い光源というのがだんだん出てきているので、そこらも気にされて採用されると、より忠実に色が見えるのかと思います。
事務局	ありがとうございます。参考にさせていただきます。
小松構成員	これからずっと展示していくときには、開口部の開閉はどういう計画をされていますか。通風計画とかが大事になってくると思います。
事務局	観覧のとき、基本的には、建具の関係は、最終的には雨戸が置いてありますが、雨戸については開閉をします。窓についても、部分的には開けるようなかたちをとりながら、中の換気も含めて進めていきたいと思います。
小浜座長	今の照明の話ですが、外観のライトアップというのはしないのですか。
事務局	外観のライトアップについては、過去やってきているところです。ただ、これについても時期を決めて、名古屋城の開園時間が延長している時期にライトアップしていることは、今までもありました。今のところの計画ではありますが、夜間延長を名古屋城としてやっている時期に、ライトアップについても計画をしていきたいと思っています。
小浜座長	そのほか、いかがでしょうか。 それでは、意見ありがとうございました。そのほか、何か議事以外にご意見、ご質問等があればお願いします。 本丸御殿の工事の報告は、今回が最後になりますか。
事務局	はい、そのとおりです。
小浜座長	長いことご審議いただきましたが、今回最後ということで、何かご意見ありますか。 それでは以上を持ちまして、本日の議事を終了いたします。この後、現場見学があるようですので、少し早めですが終了したいと思います。進行を事務局にお返しします。
事務局	小浜座長、ありがとうございました。本丸御殿については、今回でほぼ終了ということになります。今後も建造物部会はあります。今後予定していますのは、具体的に決まっていないものもありますけども、重要文化財の建造物、前回西南隅櫓の修復をしていますが、まだ修復していないもの、耐震等の改修が必要なものもあります。今後、重要文化財の建造物の耐震や修復等についても、いろいろ先生方にご指導いただきたいと思います。また二之丸庭園で、御茶屋の余芳の復原、部材が残っていますので、こちらの復原も検討していきたいということで、来年度、一部その関係の調査等も行いたいと思っていますので、ある程度まとま

	ったところで、先生方のご意見をお聞かせいただければと考えています。近くなりましたら、先生方にご相談したいと思っていますので、よろしくお願いします。
溝口副座長	余芳の件は、ぜひとも建造物だけではなくて、庭園部会と合同の部会を、意見交換もするところがあると思いますので。その辺も含めて決めていただけるとありがたいと思います。
事務局	確かに庭園と密接不可分なことですので、ご提案がありましたように、庭園部会と合同でやるようなかたちをとりながら、よりいいものが造れればと思っています。よろしくお願いします。 本日は、議事のほうでいろいろありがとうございました。たくさん意見をいただきました。参考になるものばかりですので、その辺を活かしながら、最終の完成に向けて整備を進めていきたいと思います。よろしくお願いします。長時間にわたりまして、ありがとうございました。